

アジアにおける韓国のポップカルチャーに関する研究

—タイの事例を中心に—

平成 20 年入学

参加したフィールドスクール : ベトナムフィールドスクール

調査地 (調査国) : バンコク (タイ王国)

李 美智

キーワード : 韓流, 文化商品, 実務, 援助, ポップカルチャー

自分の研究テーマについて

グローバル化が進む中、国境を越える文化の流動が起きている。1990 年代末、中国を中心としたアジア地域に端を発する韓国大衆文化を好む現象、いわゆる「韓流」もそうした現象の一つである。同じ文化圏である東北アジアのみならず、今では文化、社会環境の異なる東南アジアに至るまで、その広がりをみせている。調査対象地域であるタイもその例外ではなく、韓流が確実に浸透しつつある。

このような状況の中、韓国政府は、韓流をアジア地域内で競争力をもつ、国家の主要な育成プロジェクトの一つに位置づけた。韓流研究も文化人類学、経済学、政治学などさまざまな分野で進んでいる。このような韓流への高い関心は、韓流がもたらす経済的な利益にその理由があるだろう。韓流の拡大過程で、文化商品の取り引きが行なわれ、他の経済分野へ影響を及ぼす等、文化的な現象でありながら、同時に経済的な効果をも持つことが多くの研究によって示されてきた。

しかしながら、韓流の経済効果は、その対象国と産業によって与える影響力が大きく異なってくる。したがって、本研究の主な目的は、既存の研究を基にしつつ、韓流と他の産業との経済的な連関関係を、具体的な事例を取り上げながら分析することである。第二に、時期的にタイよりも早く韓流現象が始まり、現時点でその翳りを見せている日本、中国、ベトナムの事例を挙げて比較・分析する。このような過程を通して、本研究ではタイ地域を中心に、韓流と経済的な効果との具体的な連関を明らかにすることで、韓流への漠然とした期待と可能性のみ提示してきた既存の研究の限界を超え、現代の状況及び今後の方向性を具体的に提示したい。

フィールドスクールから得られた知見について

このたびフィールドスクールにおいて得られたことは、ひとことで言って、実際に現場で活躍している実務家を近くでみて、その姿から将来の自分の姿を想像したことである。これがフィールドスクールの一番の狙いであろう。

プログラムが始まって最初の 3 日間は、ハノイの市内に位置する日越人材協力センターの会議室で座学に参加した。講義のテーマと内容はさまざまであり、本研究科の先生方を始め、JICA (国際協力機構) ベトナム事務所の方やアジア開発銀行の方、JVC (日本国際ボランティアセンター) ベトナム事務所代表の方など、多くの実務家から話を聞くことができた。その後、実際 JVC の支援が行われているホアビン省ナムソン村を訪ねた。村民のほぼすべてが少数民族で構成されているナムソン村は、全世帯の約 30% が未だ経済的に貧困ラインにあり、今も政府や NGO の支援が継続している。その中でも NGO である JVC

と村人との「絆」にとっても驚いた。

村人の声に熱心に耳を傾け、頻繁に家々に足を運び、村人と共に計画、実施、モニタリングを行う JVC の援助活動を実際に目にし、彼らの村人との関わり方を学ぶことができた。

また、農業で生計をたてるのが困難な環境においても、環境と自然を守ることを重要視している村人の姿から、なぜか現代社会の中で環境問題に関心をもたず、発展だけを考えてきた私たちの姿が思い浮かんだ。今回のフィールドスクールは、実務の現場に触れ、自身の生活を振り返るよい機会となった。



写真 1：日越人材協力センターの前



写真 2：ホアビン省ナムソン村

フィールドスクールで学んだことがどのように研究テーマにいかせるか？

言葉や文化の異なる現場で、実務家と現地の人々との関わりや交渉能力などを身近で学ぶことができた。それをこれからの研究に生かすことができれば、インタビューや資料収集における交渉能力を高め、より容易で深層的な調査ができるのではないかと思う。

また、今回のフィールドスクールでは、少数民族の住む村に宿泊する機会が設けられた。数軒の農家を訪問したが、すべての家で、韓国、中国、台湾などの俳優のポスターが壁一面に貼られているのを目にした。また、若者は、韓国人俳優の話で盛り上がっていた。10年前から進む近代化の波とともに、小さな農村にもポップカルチャーがいち早く浸透している事実に驚かされた。この発見は、今回のフィールドスクールでなければ目にする機会のない、自身のこれからの研究における貴重なヒントになった。

さらに、今回のフィールドスクールを通し、自分の研究対象地以外の地域を訪れることによって、不思議なことに、自分の地域との比較ができ、自分の地域をより深く理解できた。すなわち、ベトナムを通し、タイをみてきたのである。



写真 3：ナムソン村（財津撮影）



写真 4：ナムソン村におけるポップカルチャー（財津撮影）